



いま、過疎の町に  
求められる「情報化」とは

北海道テレコム懇談会調査事業報告

2013年10月11日

株式会社道新デジタルメディア  
澤田 原

## はじめに（報告者略歴）

- 澤田 原（さわだ・げん）

1960年 小樽市生まれ 北大法卒

- 1996年～2011年

（社）テレコムサービス協会北海道地区会員として活動

（1999年～2000年 北海道地区副会長）

- 2002年～2010年

ネットビジネス21研究会北海道地区主査

電子商取引実験、国際取引実験等に参画

2002年より株式会社道新メディック（現道新デジタルメディア）に在籍、現在に至る。



## 【概要】 テレコム懇談会の調査事業について

- 2009年度～2012年度（4カ年間）の定点調査
- 6自治体（島牧村、別海町、南富良野町、礼文町、石狩市、遠別町）を対象
- ブロードバンドインターネットをはじめとするインフラの普及実態を調査・分析



## 【調査のサマリー】 ① おもな調査項目

- ICT利用や普及動向について
  - インターネット
    - 普及率、接続形態、利用目的、利用時間、課題
  - デジタル放送
    - 普及率、利用サービス、コンテンツ、視聴時間、課題
  - 固定/携帯電話
    - 普及率、利用機能、利用時間、課題
- 情報化に対する意識・要望
  - 地域情報への関心度
  - 情報ツールの利用度
  - 情報化政策への要望

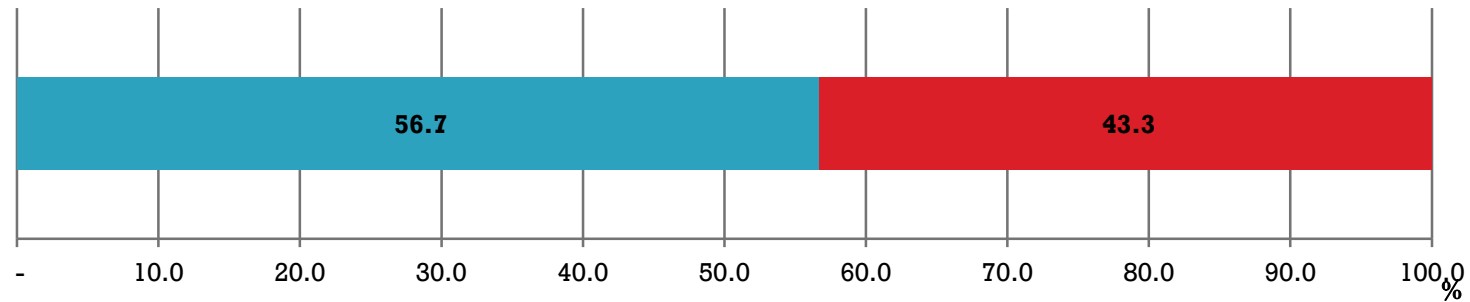


# 【調査のサマリー】 ② 標本の属性等

## 男女比

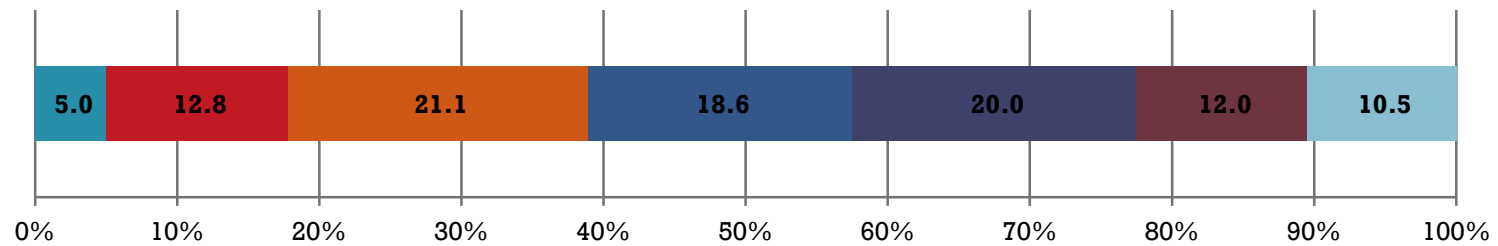
総合男女比

■ 男 ■ 女



## 世帯年齢構成

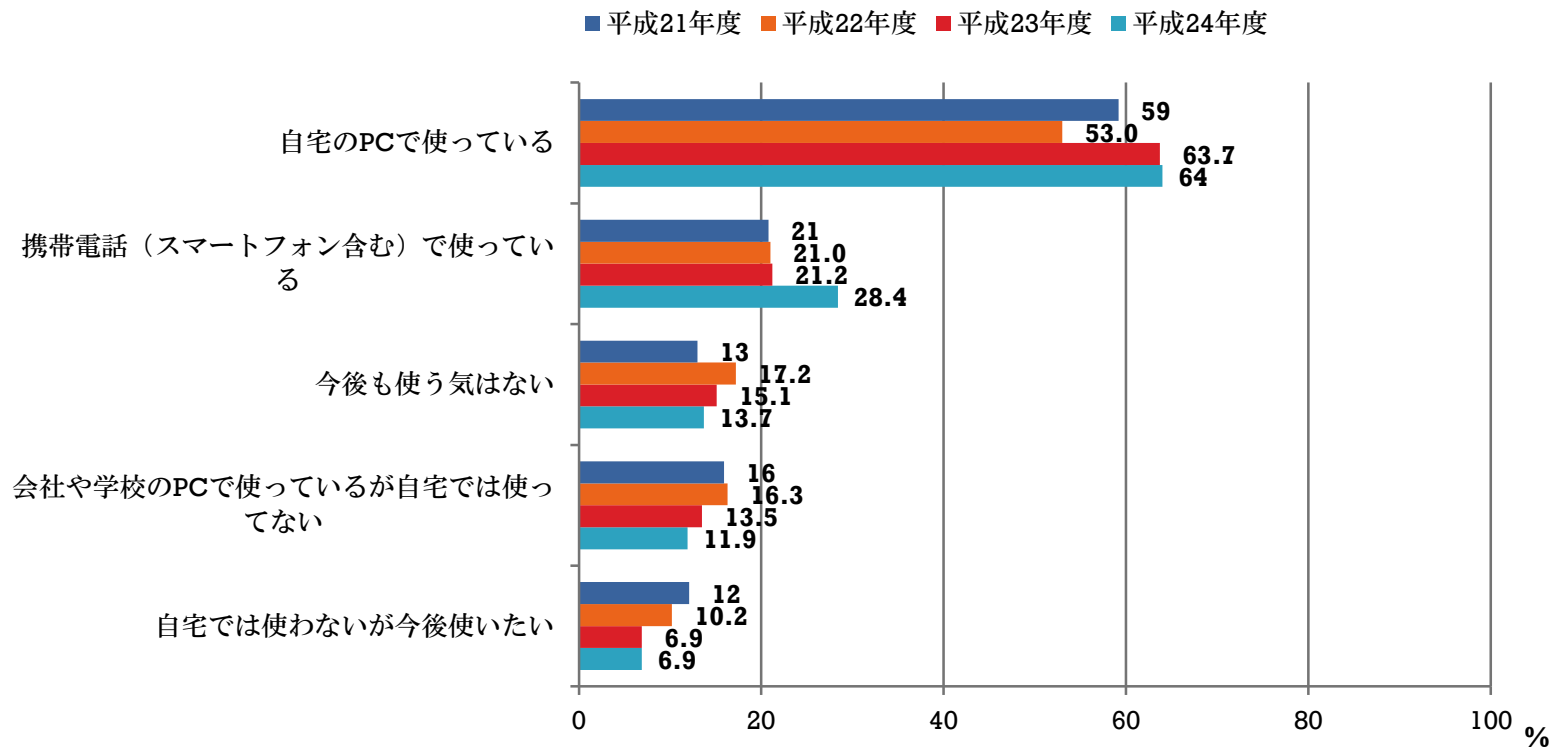
■ ~20 ■ 20代 ■ 30代 ■ 40代 ■ 50代 ■ 60代 ■ 70代~



# 【調査のサマリー】③ 地域情報化はどう進んだか

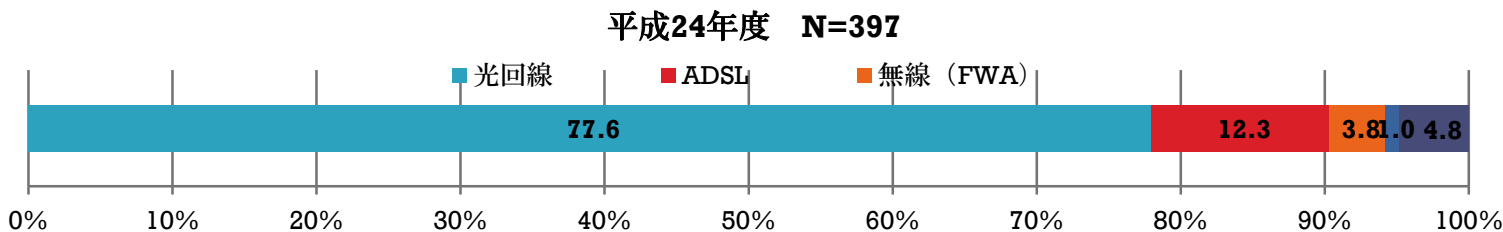
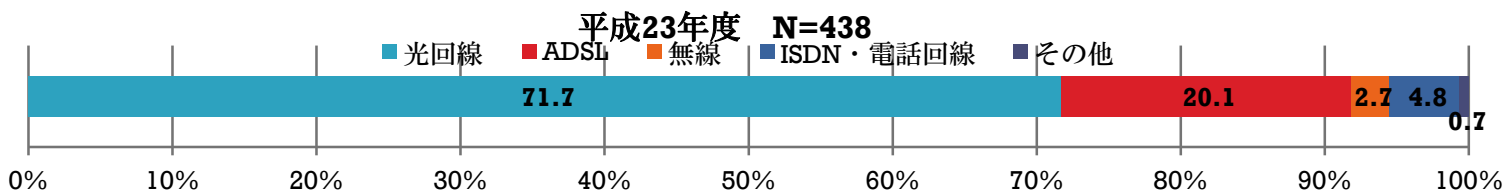
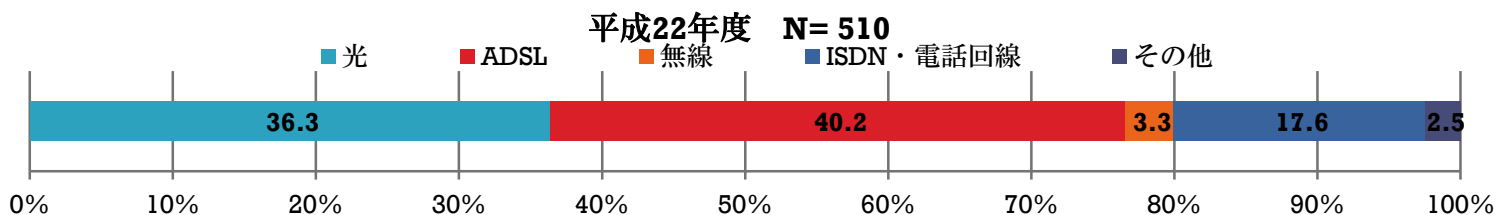
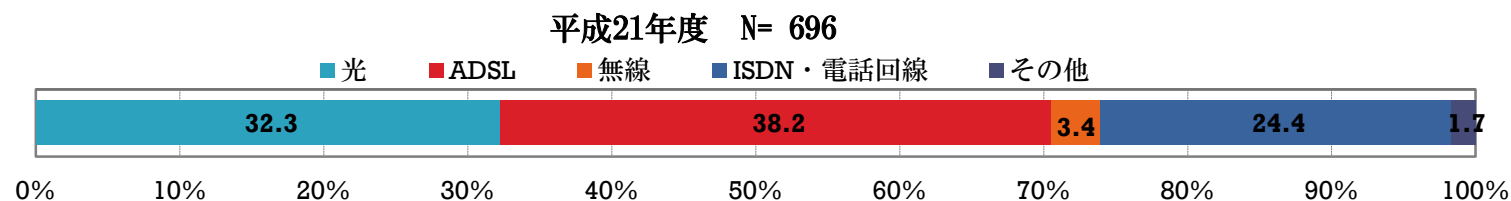
## 調査データ（インターネットの利用形態）

インターネットは利用していますか？



# 【調査のサマリー】③ 地域情報化はどう進んだか

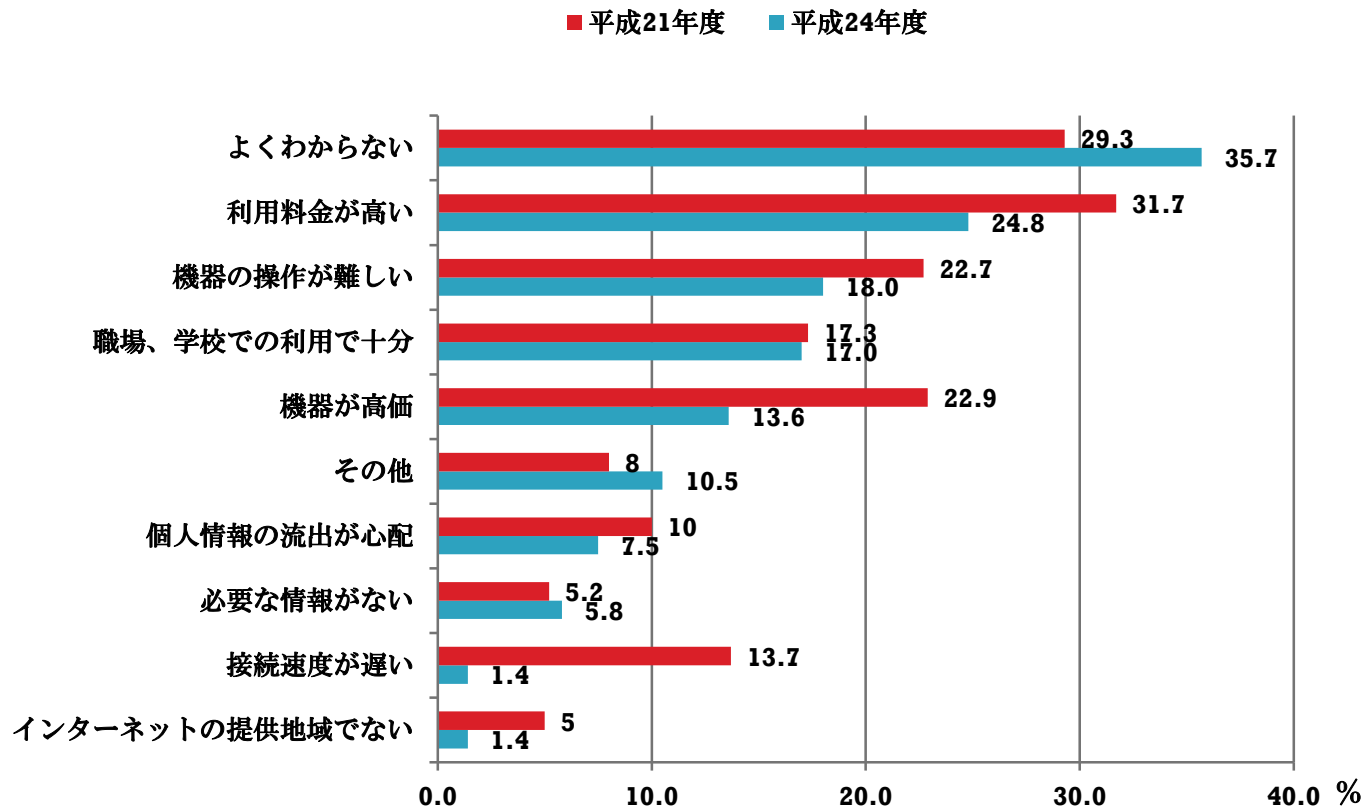
## 調査データ（インターネット接続形態）



# 【調査のサマリー】③ 地域情報化はどう進んだか

## 調査データ（インターネット利用しない理由）

ご自宅でインターネットを利用していない方。理由は？

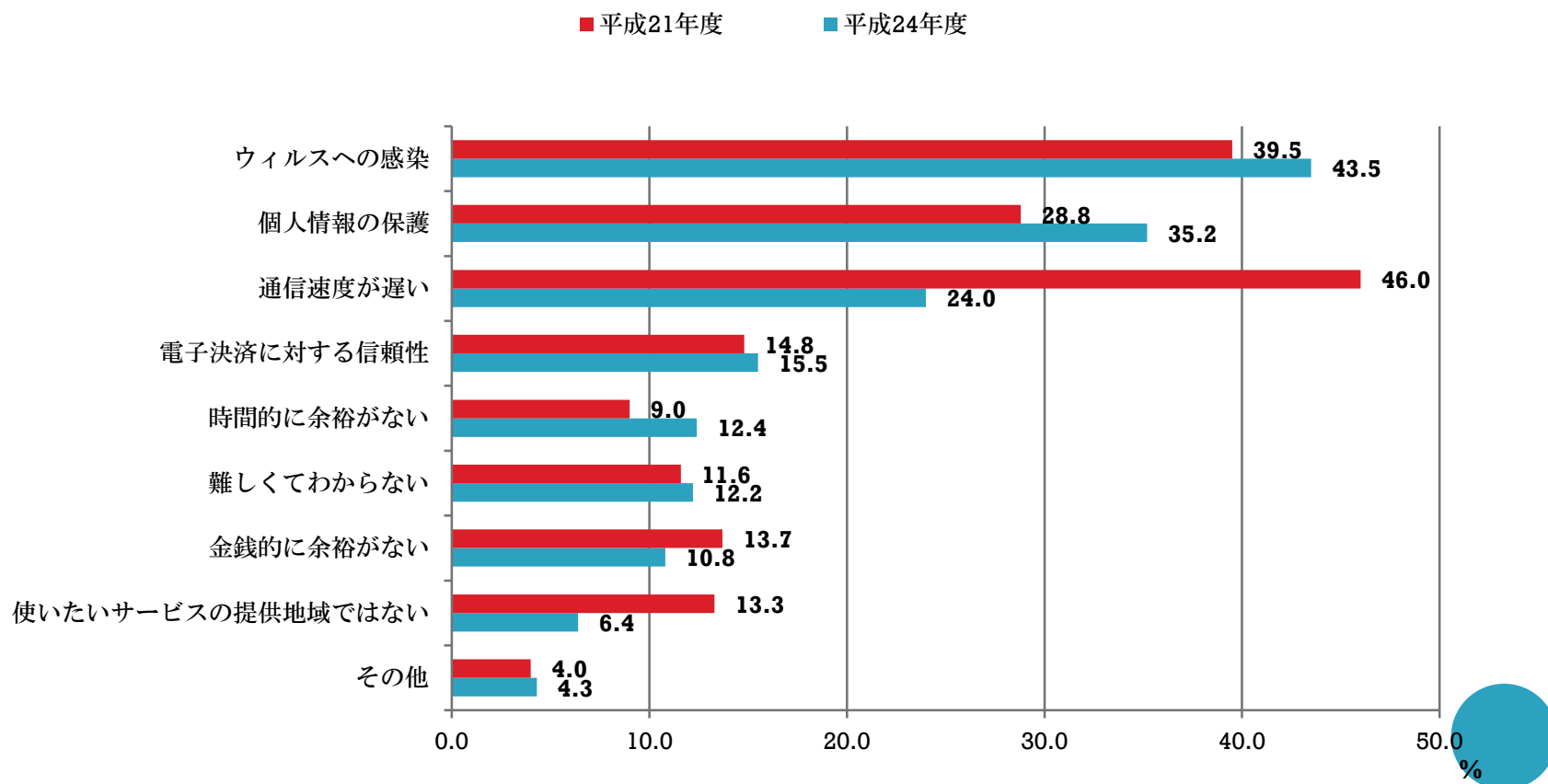




# 【調査のサマリー】 ③地域情報化はどう進んだか

## 調査データ（インターネット利用上の問題）

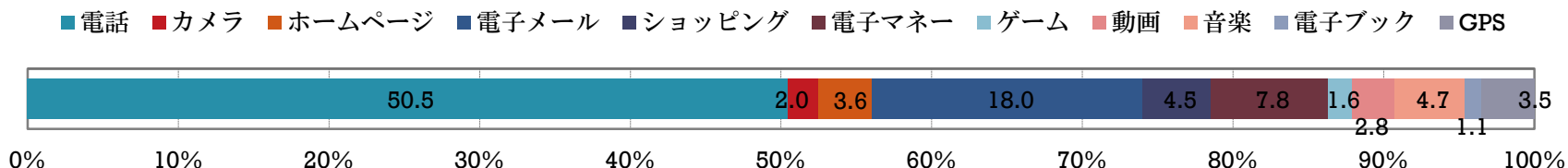
インターネットを利用するうえで何か問題点がありますか？



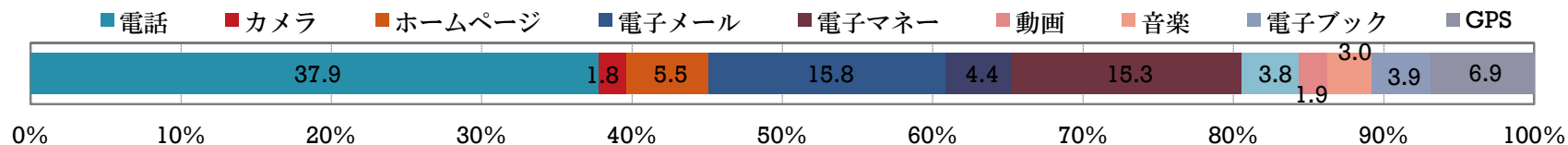
# 【調査のサマリー】③地域情報化はどう進んだか

## 調査データ 今後利用したい携帯電話の機能

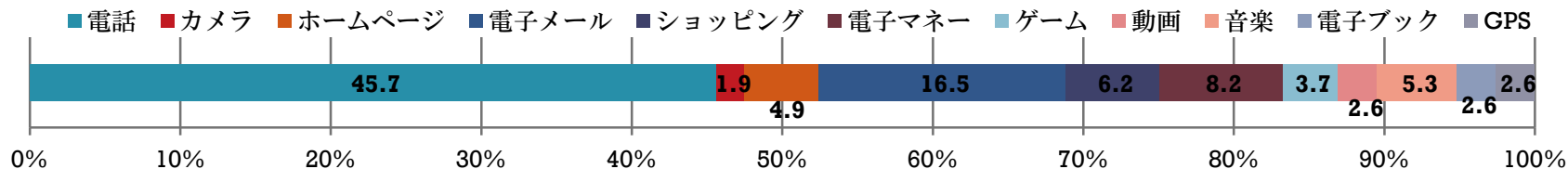
平成21年度 (優先順位①) N = 878



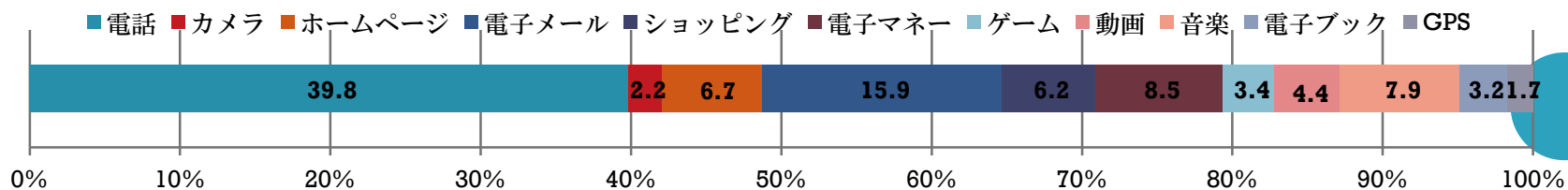
平成22年度 (優先順位①) N = 844



平成23年度 (優先順位①) N=698



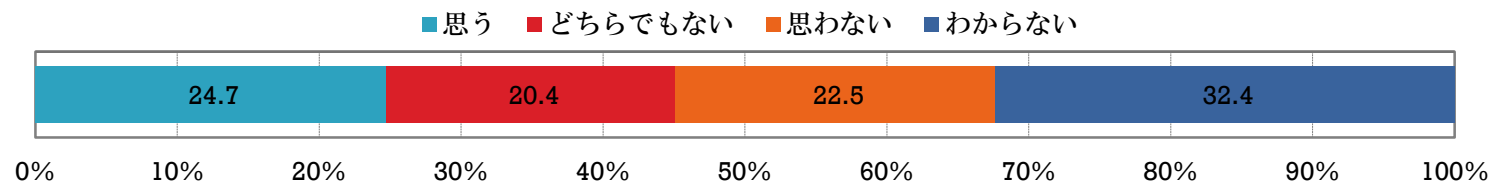
平成24年度 (優先順位①) N=585



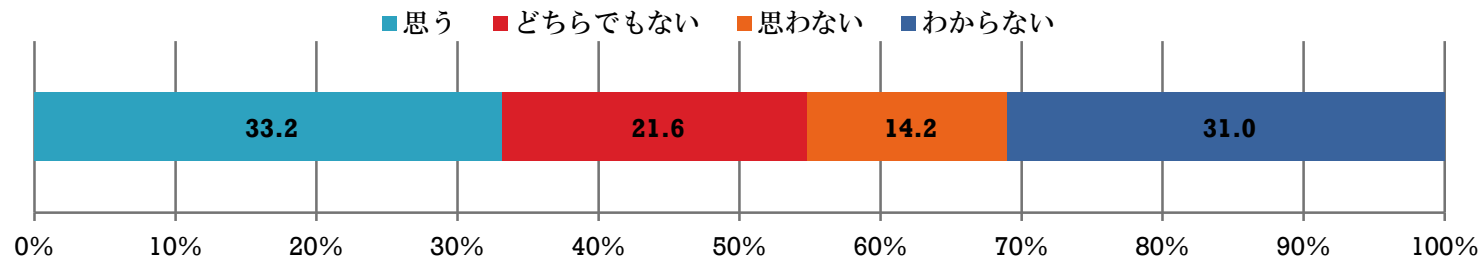
# 【調査のサマリー】 ③地域情報化はどう進んだか

調査データ 情報化を街づくりに活かしているか

平成21年度 N = 1164



平成24年度 N=883



## 【調査のサマリー】 この調査で明らかになったこと・ならなかったこと

- 過疎地への情報インフラの普及度が明らかになり、ブロードバンドインターネットの普及がほぼ完了したことが窺われた
  - 反面、風の強い島嶼では断線リスクも
- 高齢者層におけるPC,インターネットの利用度は漸増傾向にあるものの依然として障壁は高いことが窺われた
- 情報化政策への不満が全調査期間を通じて存在したが、その理由は必ずしも明らかにはできなかった
- 調査設計時に想定していなかった社会の変化（インフラ普及のスピード、スマートフォンやSNSの急速な普及など）に対応できなかった



# 追加調査の視点

- 情報化政策への住民の不満はどこから来ているのか。また、解決への糸口はどこにあるのか
  
- 地域情報化の進展を妨げているものはなにか



# 【追加調査】遠別町における情報化の実際

## 訪問インタビューから

- IP告知端末のコンテンツ「えんべつ光タウン」は4名の地域おこし協力隊で維持している。（ITコンテンツについては実質1名）
- リサイクル情報などの利用は高い
- 町の人がどのようなコンテンツを望んでいるかは正確に把握できていない
- 地域おこし協力隊は3年目の今年が最終年度。NPO法人化して継続の方向
- CATVの普及ができれば地域の情報ツールとして理想的だがコストが問題
- 町のホームページは札幌の会社に発注してCMS化を進めている



遠別町役場 総務課企画振興係  
佐藤克久係長



# 【追加調査】 礼文町における情報化の実際

## 訪問インタビューから

- 役場のWebサイトは多い時で2回/月の更新だが、産業課管轄の観光協会のHPはかなりの頻度で更新している
- 更新作業自体は協力企業に外注
- 観光コンテンツがどのくらい観光客の入り込みに貢献しているかを定量的には把握していない
- 観光客入り込み数自体は減少傾向
- IP告知端末（全戸に導入）では毎日定時の放送を行っている
- 集会の参加者集約にIP告知端末を試用してみたことがあるがうまく行かなかった
- 紙の広報ほどの情報量を告知端末では扱えない



礼文町役場 総務課  
笹森厚志主査



# 共通した悩み、問題点

- アイデアがあっても実現するためのマンパワーが不足している
  - 定期的な研修にも事欠く
  - 専任者を置けない
- コストの問題
  - インフラを作るにも端末を設置するにもまずはお金
  - 上司や議会の理解を得にくい問題





# 【考察】地域における情報需要とは

- インフラが普及すれば「情報化」なのか？
- （地域内情報とはたとえば）
  - みんなが知っているべきことがすぐに伝わる
  - いつでもみんなとつながれる
- （対外的情報とはたとえば）
  - 「どんな町か」が誰にでもすぐにわかる
- ICT利活用の目標感を明確に持つ必要
  - 地域のためのICT利活用であること
  - 情報化を促進することで地域の何が良くなるのかをはっきり意識する必要



## 【考察】コンテンツがない、作りたい、 人手がない、続かない

- 一過性のものを作っても意味がない
- 持続可能であるためには
  - 誰か一人が頑張りすぎるのはいけない
  - 発展性のある道筋をつくる
- 「地域おこし協力隊」が可能なら理想的。だが...
- 「都会の力」を地域にもたらすことが必要。そのためには...



## 【考察】都市部における情報需要と何が違うか

- （情報提供側）
  - 都会ではインフラがあればコンテンツは勝手に湧いてくるが...
  - 素材はあってもコンテンツ化する力が足りない
  - 官であれ民であれ誰かが献身的に先鞭をつけないとならない
  - 意外なところにコンテンツの素はある
- （情報享受側）
  - 利用可能なインフラや端末に制約
  - 情報格差を埋める手立てに乏しい
- SNSの効果的な利用を



## 【考察】超高齢化社会であることに着目すると

- 医療需要に関連した情報需要
  - ここが痛い 薬が欲しい 通院の補助 救急要請
- 日常生活を補助する情報需要
  - デリバリサービスの手配など
- 安否確認

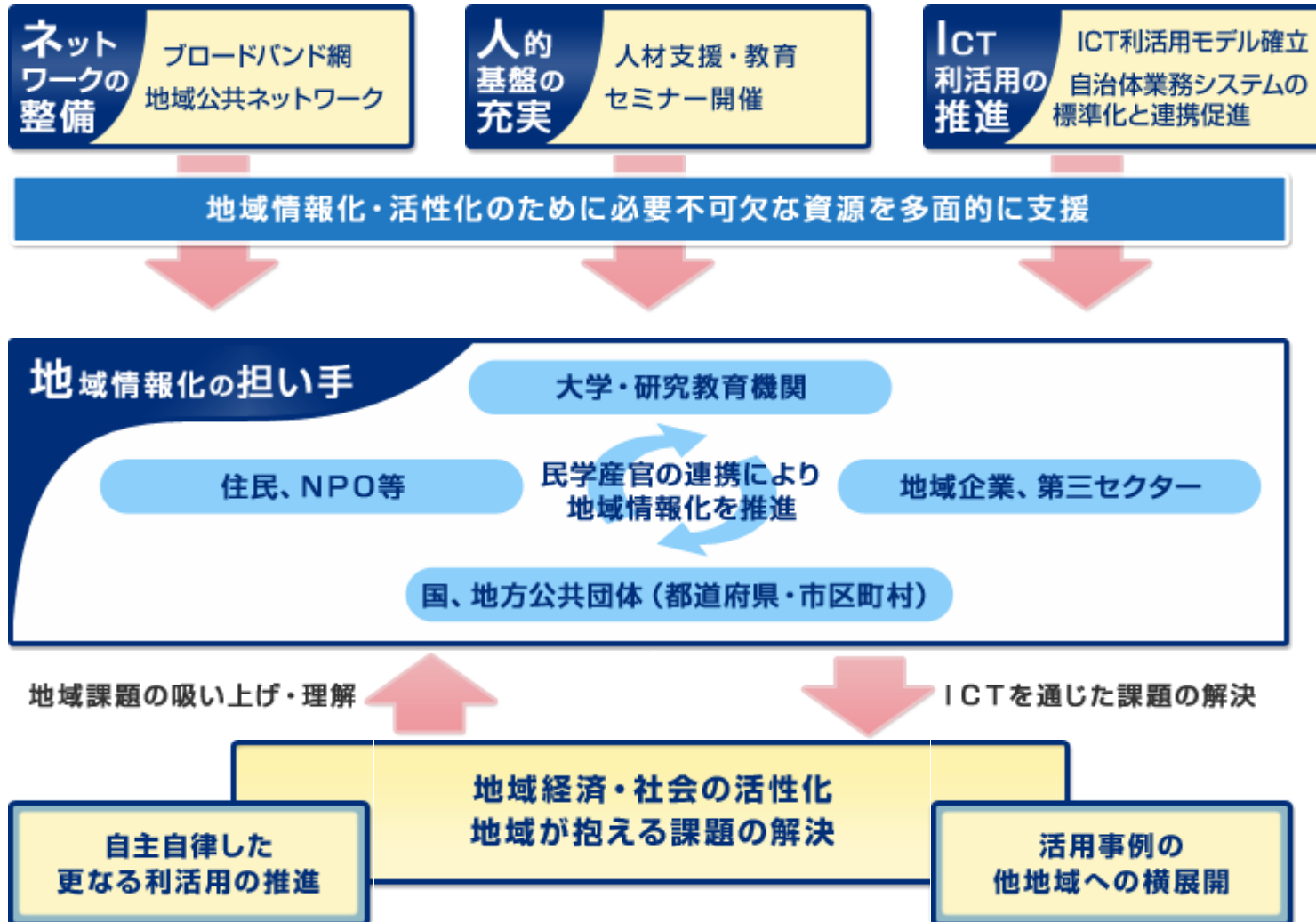


※これらはIP告知端末でかなりの部分カバーできる



我が国が抱える様々な課題（少子高齢化、医師不足、協働教育の実現、地域経済の活性化、社会基盤の老朽化等）を解決するため、各府省と連携しながら、地域情報化・活性化のために必要不可欠となる資源を多面的に支援し、ICT利活用等を通じて推進・普及啓発を行なっています。

総務省HPより



# 北海道における地域情報化推進事例

## 事業テーマ「地域活性化」

- 「食とICT」による「地域の健康と安全安心ブランドの推進」経済活性化事業（特定非営利活動法人札幌ビズカフェ）
- ICTを活用した教育振興・連携事業（夕張市、千歳市）
- 日本で最も美しい村ヘルス・ツーリズム推進事業（特定非営利活動法人「日本で最も美しい村」連合）
- ICTを利用した「緑の分権改革」推進事業（特定非営利活動法人札幌ITフロント）
- 広域連携型地域ポータルICT利活用モデル事業（第3セクター美唄未来開発センター）
- 美唄郷土情報による地域活性化モデル事業（北海道美唄市）
- 地域ICTを利活用した「健康増進および地域活性」モデルの事業化（旭川市）
- 「ちょっと暮らし」によるあっさぶ素敵なお菓づくり事業（北海道厚沢部町）
- 乙部町ICT利活用地域再生プラン（北海道乙部町）
- 当別町町民活動支援システム構築事業（北海道当別町）
- テレビ向け地域コミュニケーション環境構築事業（北海道深川市）
- 大雪山観光エリア情報発信推進事業（東川町）
- クロスメディア構築による産業振興（紋別市役所）
- ICTを活用した地域農業活性化支援事業（新十津川町）
- 知床羅臼町観光支援システム構築事業（北海道羅臼町）
- クラウド型交流拠点ネットワーク構築事業（美唄未来開発センター）



## 【むすび】 「地域情報化」の課題とは

- インフラ自体が問題であった時代はすでに過去
- 誰に、どんな情報が必要かを明確にして
- 情報量をもっと増やすこと
- マンパワーを外部に求める方向をもっと追求したい
  - そのためにインフラを活用
- 情報流通による様々な効果を測定
  - Ex.観光客向け携帯端末でのネットアンケート
  - Ex.住民向けコンテンツの末尾に「役に立った」「立たなかった」
- 既存スキームをうまく使ってお金のかからない工夫を
- 住民や議会の理解を促進

